

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援【小学部4・5年】
教科・領域	生活単元学習
単 元	バスにのって出かけよう
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習の活動計画を組み立てて、当日の動きに見通しをもつ。 ・タブレット端末の操作に慣れ、簡単な発表ができる。
I C T環境 (授業で使用した機器)	iPad (教師用1台, 児童用3台) , Apple TV, プロジェクタ4, 無線LAN スクリーン1
利用したデジタル教材 (アプリ, サイトのアドレス, 資料など)	ロイロノート, カメラ, 時計
授業での I C T 機器の活用 方法と手順	<ol style="list-style-type: none"> ① ロイロノートのアプリを開き, 児童に使用する写真データを配付する。 ② ①で配布した写真を, 校外学習で回る順番につなげていく。 ③ 写真の下に説明文(場所の名前等)を記入する。 ④ 制作した作品を発表する。
授業の工夫(ポイント)	<p>事前学習として「ロイロノート」の使い方を指導した。</p> <p>写真を順番につなぐ方法や説明の入力が簡単にできるようにひらがな入力の方法を指導した。</p> <p>3名のタブレット端末を同時に提示することで, それぞれが作成したものを比較しやすくした。</p>
児童の様子	<p>タブレット端末を一人一台使えることで, 意欲的に取り組むことができている。タブレット端末の操作にも慣れ, アプリの起動, ひらがなの入力, 漢字変換などの基本の操作ができるようになってきた。</p>

実践案

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	3分	本時の学習内容を知る。 ・校外学習で出かける場所を聞く。 ・タブレット端末を受け取る。	・校外学習で出掛ける場所を確認する。 ・タブレット端末を配付し「ロイロノート」を開くように指示をする。
展開	37分	写真を並べ替えて、一日の流れを組立てる。 ・タブレット端末を使い、使用する写真を受信する。 ・写真を並び替えて矢印でつなげる。 ・写真に説明を入力する。	・写真を各自のタブレット端末に送信し、作業を進めるように指示をする。 ・児童に一日の流れを書いた紙を配付し、その順番に写真を並べるように指示する。 ・写真のつなぎ方がうまくいかないときや、文字入力に時間がかかるときは、操作を手伝う。 ・入力する説明は重要な行動だけにさせ、その他は前時に入力させる。
		組立てた一日の流れを発表する。 ・全員でそれぞれ順番や説明が合っているか確認しあう。	・3台同時に前に提示できるように準備する。 ・一日の流れを板書する。 ・写真が間違っていた場合は、後で直すように指示をする。
まとめ	5分	校外学習の日の流れをタブレット端末で確認する。 ・一日の流れを再確認する。 ・校外学習でタブレット端末を見て行動することを知る。	・間違っていた児童がいた場合は、他の児童のタブレット端末を見て、しおりの内容と照らし合わせる。 ・タブレット端末を1台持って行くことを伝え、当日に利用することを伝える。 ・プリント学習は時間があれば行う。

評価

児童について	児童の興味・関心	タブレット端末の操作に慣れ、意欲的に授業に参加することができた。
	児童の理解	しおりの予定表を手掛かりに写真を順番通りに並べることができた。
	児童の情報機器の活用度	写真を見て、ひらがな入力でその写真の説明を入力することができた。
授業について	事前準備の難易度	事前に写真を整理しておくことで、当日は整理した写真をWi-Fi経由で配付するだけで済むので、事前準備として大変だと思わなかった。しかし、タブレット端末1台につきプロジェクタ1台の接続を行ったので、機器の設置時間は必要である。
	指導者にとっての授業展開の難易度	今回使用したアプリは児童でも簡単に写真を並べ替えたり、文字を入力したりできるので、展開面で苦労した点は特になかった。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	しおりの予定を手がかりにして、写真を順番通りに並べ替えることで、文字と写真がつながり、当日の流れを把握するのに見通しをもつことができた。
	効果的な指導方法であったか	児童がそれぞれ自分の答えと他の児童の答えを見比べることで、間違いに気付くことができとてもよかった。

<実践の感想及び反省点等>

今回、最も気を付けた点は、個別指導から全体指導への展開である。一人一台タブレット端末を使うときは個別指導である。個別指導だけで終わらないために、どのように全体指導を行うかという点が課題であった。本校の児童生徒は、話（音声）を聞きながらタブレット端末を操作することが難しいので、4画面同時提示（教員を含む）という方法をとった。全員のタブレット画面を一つのスクリーンに提示することで、自他の比較がしやすいと考えた。今回、一人ずつ発表する時間がなかったが、同時提示という方法により、自分で間違いに気づき、全員が同じ答えを共有することができた。また、プリント学習等の「書く」作業は別に設定する必要がある。